

新生匝瑳戦略会議

「国保匝瑳市民病院の再建に 関する意見書」を市へ提出

新生匝瑳戦略会議の渡辺新委員長、橋場永尚副委員長から7月7日、「国保匝瑳市民病院の再建に関する意見書」が太田市長に提出されました。

これは、新生匝瑳戦略会議で、市の懸案事項として検討している「市民病院の経営健全化」に向けた取り組みの一端として行われたものです。



太田市長に意見書を手渡す
渡辺委員長（中央）と橋場副委員長

意見書は、市民病院の現状や課題、医療スタッフや市民の意識問題にもふれるなど、さまざまな角度から病院再建へ向けた内容が盛り込まれています。

渡辺委員長は「病院問題の議論を豊富化するためにこの意見書を作成しました。ぜひ

とも市民病院を再建してください」と、力強く語っていました。

なお、新生匝瑳戦略会議では、市の重要施策や懸案事項などについて、引き続き検討を行ってまいります。

企画課まちづくり戦略室

☎ 73・0081

匝瑳消防署野栄分署、横芝光消防署

9月から電話番号が変更

匝瑳消防署野栄分署と横芝光消防署の電話番号が、9月1日より変更となります。

◆匝瑳消防署野栄分署

【新】☎ 67・1119
【旧】☎ 67・2291

◆横芝光消防署

【新】☎ 80・0119
【旧】☎ 82・1347

問 匝瑳市横芝光町消防組合消防本部総務課 ☎ 72・1915

地デジでお困りの人へ

臨時相談窓口を設置中

アナログ放送は7月24日をもちって終了しました。

現在、総務省が市役所玄関ロビーに臨時相談窓口を設置していますので、地デジに関することでお困りの人はご利用ください。

◆電話相談

地デジコールセンターへ直接つながる携帯電話を設置しています。

実施日：8月26日（金）まで

（土日祝日および対面相談会実施日を除く）

時間：8時30分～17時

◆対面相談会

アドバイザーが相談を受けています。

実施日：8月3日（水）、10日（水）、17日（水）

時間：9時30分～16時30分

（12時～13時除く）

問 デジサポ千葉

☎ 043・3333・7100



各種手当の現況届

提出を忘れずに

左記の手当の受給者は、現況届または所得状況届の用紙

が後日郵送されますので、必要事項を記入し、8月31日（水）までに市役所福祉課または野栄総合支所へ提出してください。

◆対象となる手当

- ・ 児童扶養手当
- ・ 特別児童扶養手当
- ・ 特別障害者手当

・ 障害児福祉手当

・ 福祉手当

・ 重度知的障害者及びねたきり身体障害者福祉手当

※この届を提出しないと手当を受けることができなくなりますので、ご注意ください。

問 福祉課福祉班 ☎ 73・0096

野栄総合支所 ☎ 67・3111

匝瑳市情報化計画（素案）

ご意見を お寄せください

市では、情報化の円滑な推進を図ることを目的として匝瑳市情報化計画を策定しています。このたび、計画の素案がまとまりましたので、より良い計画とするため、ご意見をお寄せください。

意見募集期間：7月25日（月）～8月23日（火） 素案の公表

：市ホームページ、市役所玄関ロビー行政資料コーナー、野栄総合支所玄関ロビー 意見を提出できる人：市民、市内の事業者、市内に通勤または通学している人 提出方法

：「匝瑳市情報化計画（素案）に対する意見」と明記し、氏名、住所をご記入の上、次の方法により提出してください。書式の指定はありません。① 電子メール j-seisaku@city.sozai.jp ② FAX 72・1117 ③ 郵送、持参 〒289-1219 匝瑳市八日市場ハ793番地2 匝瑳市役所企画課情報推進室

問 企画課情報推進室

☎ 73・0082

患者さんに後悔のない生涯を

市民病院 布村副院長インタビュー



【プロフィール】

昭和25年石川県生まれ。
千葉大学医学部を卒業後、千葉大学病院第一外科講師、千葉市立病院外科部長、千葉市立青葉病院外科部長などを経て、今年4月から匝瑳市民病院副院長。
日本大腸肛門病学会指導医・専門医、日本外科学会指導医・専門医・認定医、日本消化器外科学会専門医・認定医。

今年4月に市民病院副院長に着任した布村正夫先生に、医師になったころのお話や今後の抱負などを伺いました。

—先生のご出身は？

石川県の金沢市です。古い城下町なんです。高校3年生まで地元でのんびりと暮らしていました。高校卒業後は上京して、都会での生活も経験しました。

—子どものころから医師を目指していたのですか？

私の父親は銀行員で、私自身ももともとは文科系の人間なんです。医学の世界とは無縁だったのですが、やはり「手に職をつけた方がいいな」と思い医学部を目指しました。しかし医学部の門は狭く、途中で、早稲田大学に通っていた時期もありましたが、今思えばそれもいい人生経験だったなと思っています。

—色々な診療科がある中で外科を選んだ理由は？

大学時代に外科の実習に行ったとき、手術が終わってみんなで飲みに行ったんです。その雰囲気や当時所属していた卓球部の雰囲気に似ていて楽しかった。それがきっかけです。

—外科医になってよかったと思うときは？

手術という行為はメスで身体を傷つけるわけですけど、それによって術前は食事もできなかった人が元気になったときや、がんを切除して完治させたときなどが外科医として達成感を感じますね。

手術をきっかけに劇的に病状が快方に向かい、ほとんどの患者さんが元気になって退院されるのですが、そのときによく感謝の言葉をいただきます。その瞬間、外科医になってよかったと思います。

—市民病院ではどんな医療をしていきたいですか？

長年治療を続けている患者さんの中には、再発して亡くなってしまう方もいらっしゃいます。そのような患者さんが残念な気持ちで最期を迎えないようなケアが必要だと考えています。

患者さん一人ひとりのすべてを把握しながら、その方が

最期を迎えるまで診ていきたいですね。私が若いころは、患者さんの病気が再発したときに「これだけの手術をしたのに」と外科医として敗北感を感じていました。しかしそれは患者さんの敗北感にもつながってしまふんです。患者さんがマイナス思考のまま最期を迎えてしまうことは避けなくてはなりません。

治療にはもちろん全力を尽くしますが、どうしても治すことができない場合もあります。そんな場合は、痛みやつらさを少なくする治療を行います。今は緩和治療が発達してきて、がんが進行しても飲み薬や張り薬で、痛みをほとんどなくすることができるようになってきています。

現在は、日本人の半分ががんにかかり、3分の1が亡くなる時代で、がんも天寿です。在宅医療や介護施設とも連携しながら、満足な悔いのない往生ができるよう、お役に立てればと思っています。

—若い先生方に思うことは？

まずは技術の継承。これはとても大切なことです。ある程度の技術を身に付けてくると、その裏付けとともにそれを次の世代に伝え、それをま

た次の次の世代に伝えていく。これが外科の世界の受け継ぎだと思っています。

ただ患者さんの身体だけを診るのではなく、その患者さんがどのように過ごしているかという、ご家族や近所の方たちも含めた生活全体に配慮する視野を、若いドクターたちには持って欲しいと常に思っています。

—お忙しいところありがとうございました。

ありがとうございます。

「女性外来」がスタート！

・体調がすぐれない、食欲がない、夜眠れない、いらいらする、体がだるい、のぼせやすく汗をかきやすい
・男性医師には相談しにくい部位に違和感があるなどの症状がある人、お気軽にご相談ください。専門医（女性）がお話を伺い、適切な診療科をご紹介します。また、産婦人科の診察などが必要な場合は近隣の産婦人科医と連携をとって対応します。

◆診察日 毎週木曜日 8:30～11:30（市民病院へ電話予約要）

◆担当医 増田真紀医師（総合診療科内科）



※このページに関する問い合わせは市民病院 ☎72-1525へ